



西栗倉中学校だより

令和8年9月30日(水) 発行



15の春の自立を地域とともに目指す活力のある学校

(学校教育目標)

未来を拓き たくましく生きる力の育成 ～ 自律 協働 挑戦 ～

(校長雑感)

合同運動会、秋の連休(シルバーウィーク)も終わり、一息つきました。合同運動会では、連日、3年生のリーダーを中心に放課後の会をもち、毎日の練習を振り返りながら、翌日の練習計画を練り直していました。自分たち自身の手で運動会を成功させようという気概が感じられるひとときでした。特に今年は雨も多く、グラウンドでの練習がままならない日も多くありました。雨天時(体育館)用と晴天時(グラウンド)用の両方の計画を立てるなど、多くの苦労があったと思います。そんな中でも、前に立つリーダーは臨機応変に練習メニューを考え、実行していきしました。また、リーダーを支える多くの生徒も、リーダーの声かけに応えながら、熱心に練習をしていました。(日々の様子はHPをご覧ください。)

運動会前の17日(木)の午後、美勝英地区の中学校の校長先生方が本校で会議をされました。その際、運動会実行委員会のソーランリーダーから「校長先生が来られると聞いたので、急遽ソーランをすることにしました。〇分に見に来てください」と連絡がありました。本来は計画していなかった練習でしたが、全員の団結した姿を見た各校長先生からは、「生徒が生き生きとしていますね」「しっかり声も出て、腰も低く、素晴らしいですね」といった声をいただきました。その前には、種目練習中に石拾いをしていた私が、練習後、生徒に呼ばれました。行ってみると、円陣の中央で「僕たちのために石拾いをしてくれて、ありがとうございました!」と感謝の言葉をもらいました。練習の中でこのような言葉を聞くことはあまりなかったので、びっくりするとともに、嬉しく思った瞬間でした。また、前日の最後の練習の後には、実行委員の生徒が前に並び、これまでの練習を振り返り、総括をしてきていました。ここまで頑張ってきたからこそ出てくる言葉の重みに、みんなしっかりと聞き入っていました。

この運動会の練習を通して、リーダーとなった生徒は、きちんと計画を立て、全体の練習の様子を見ながら、少しでもよくなる方法を考え続けました。また、それ以外の多くの生徒は、リーダーの問いかけに真剣に応え、熱心に練習を重ね、リーダーを支えました。お互いに相手の立場になって考え、行動する姿に、生徒たちの成長を感じました。

運動会当日は、前日の雨も明け方には上がり、晴天の中、これまでの取組の成果を発揮し、素晴らしい運動会を繰り広げました。素早い動きや係活動など、予行の反省を生かし、中学校が演技(競技)をほとんど行っていなかった予行と比べても、スムーズな進行となりました。急遽、最後の色別対抗リレーの前に円陣を組み、エール合戦を行いました。ソーランの前の円陣も含め、今年の大きな特徴だったように感じます。

合同運動会ということもあり、幼稚園児や小学生とのふれあい種目「わくわく一緒に旅をしよう」についても、3年生を中心に新たに考えた種目です。幼小中の代表の先生たちを前にプレゼンを行い、修正点を教えてもらいながら、内容を練り上げていきました。感想の中にも、「直接触れ合うことができてよかった」という声がありました。冒頭の開会式の入退場や色別アピールなどでも、幼稚園児の手を引きながら、時には抱えながら参加する姿は、合同運動会ならではのあたたかい光景です。「幼い頃にしてもらったことの恩返し」ですね。西栗倉の大切な伝統の一つだと感じています。

合同運動会では、テントの準備片付けなどで保護者の方にも多くのご協力をいただきありがとうございました。学校・園の教職員と子どもたちだけではなく、このように地域や保護者の方の協力があってこそ成り立つ合同運動会です。ともに子どもの成長を支えることができたと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。